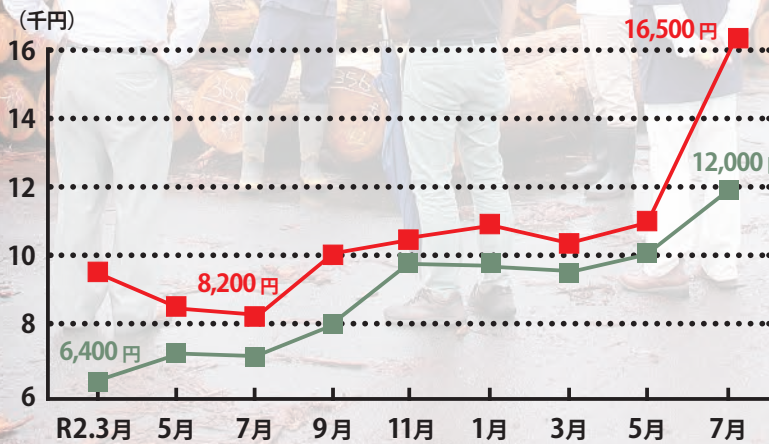
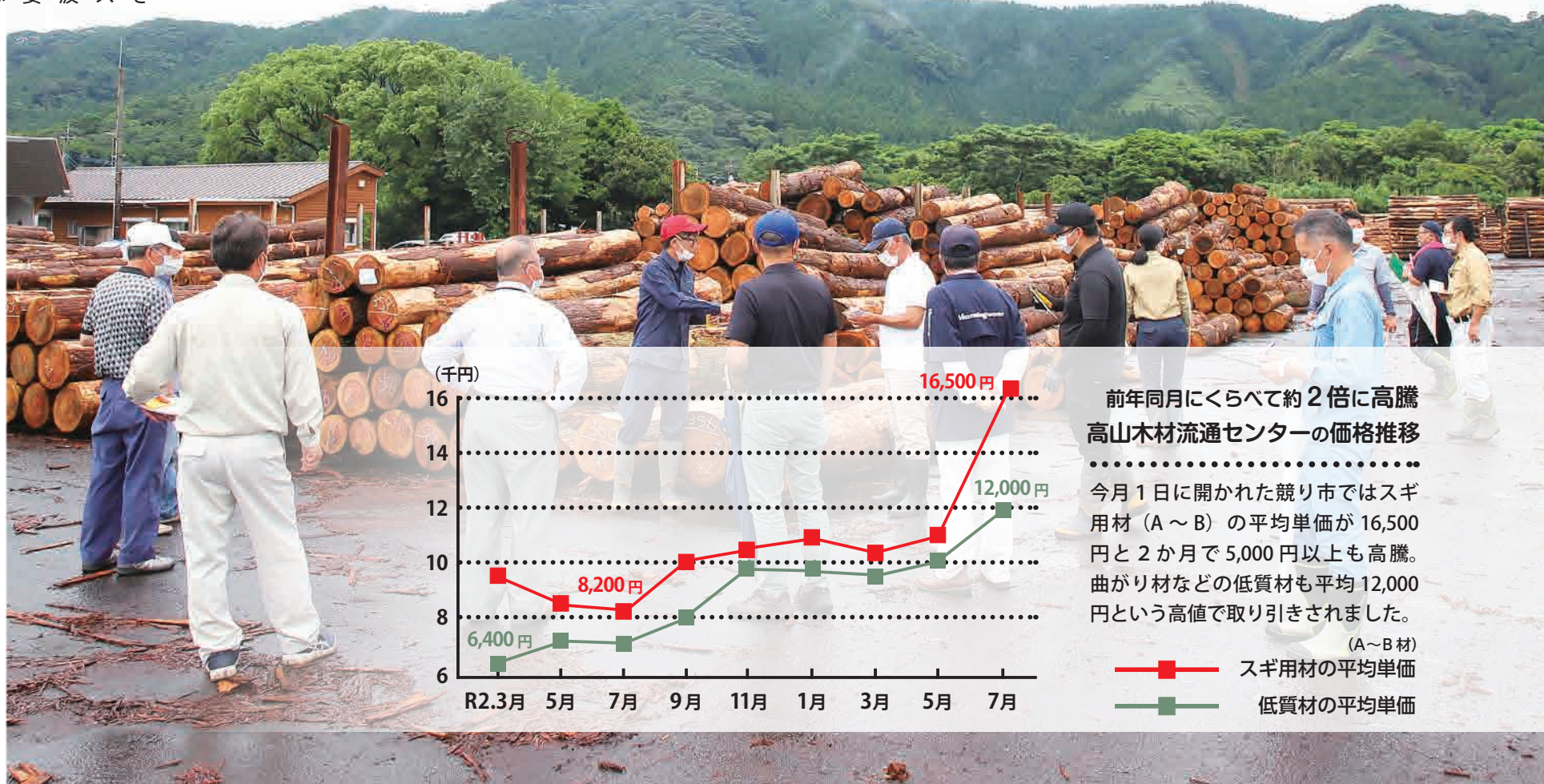


特集 木を活かし、森を育て、未来へつなぐ自然の循環

木を使う。森を育てる。

木が生い茂り林となり、月日を経て森林に変わる。良質な水を生み貯え、二酸化炭素を吸収して地球を守る。そこから得られる木材は持続可能な資源として私たちの生活を豊かに支えてくれる。伐って使うことが森を育て自然の循環が生まれる――。



前年同月に比べて約2倍に高騰
高山木材流通センターの価格推移
.....
今月1日に開かれた競り市ではスギ用材(A~B)の平均単価が16,500円と2か月で5,000円以上も高騰。曲がり材などの低質材も平均12,000円という高値で取り引きされました。
(A~B材)
■ スギ用材の平均単価
■ 低質材の平均単価

世界的な木材需要増で起こった価格高騰 新型コロナウイルスは木材業界にも影響

私たちの生活を一変させた新型コロナウイルスが木材業界にも大きな波紋を呼んでいます。必要な木材が手に入らないほど価格が高騰していることから、1970年代の石油ショックになぞらえて「ウッドショック」と呼ばれる現象が起きています。コロナ禍で停滞した経済対策として米国が行った、金融緩和による超低金利政策で住宅の新築は急増。さらに巣ごもり需要で輸送に使うコンテナが世界的に不足していることも、木材価格を押し上げている要因のひとつと言われています。

経済回復が進む米国や中国で急激に高まる木材需要の影響で起こった木材争奪戦の影響は、国内需要の6割を輸入材に頼る日本の木材価格にも反映。錦江町の山から伐り出されたスギやヒノキも取り引きされる、高山木材流通センターで今月1日に行われた競りでは、1㎡あたり約1万6千円と4月にくらべ1.5倍もの高値で取り引きされるなど、製材業者からは悲鳴の声も聞かれます。

低迷が続いた林業に明るい兆し 課題は皆伐後に植林する意識

「新型コロナウイルスの影響で住宅着工数が減少し、木材需要が落ち込んだ昨年は価格が大幅に下落。山から運び出すために運賃を払えば赤字になるような状況でした。市場が開けず山場で売れることも多かった」と振り返り、昨年では考えられない高値に驚きの表情を見せるのは、高山木材流通センターの小齊平所長代理。

鹿児島は地理的な影響もあり中国からの引き合いも強く、志布志港からの木材輸出量は10年以上も日本一と安定して増え続けています。その中国への輸出は梱包用の低質材が中心でしたが、木材不足からA材やB材と呼ばれる良質な国産製材用まで調達の対象となり、1㎡7千円程度だった低質材も1万2千円以上と値上がり。その影響は住宅メーカーや製材業者に限らず、木質バイオマス

発電用のチップ材にまで広がりを見せています。「梅雨時期は原木価格が下がるのが通例ですが4月以降上がり続けている。昨年は木材需要の落ち込みから市場の重機が動かない日も続きました。今が市場本来の姿では」と続けます。30年ほど前の取引価格に戻り、価格低迷が続いた林業にも明るい光が見えてきました。その一方で急激に進む皆伐に対して植林が追いつくのか、適正な育林が進むのか不安視する声も聞かれます。「伐期を迎えた山が動き出したが、大事なものは山が循環すること。伐って終わりではなく森林が持つ多面的な機能と役割を認識して植林を徹底することが不可欠です」。

その結果、日本の木材価格が上昇

世界規模での「木材需要の増」と「コンテナ不足」により、日本国内での木材不足が発生。中国向けの輸出も増えていることから国産材価格が上がりウッドショックが起こりました。

輸送するコンテナが不足

木材輸入には大量のコンテナが必要ですが、巣ごもり需要で流通が増えたこともあり世界的にコンテナが不足。木材輸送にも影響を与えています。



米国の住宅需要が急増

新型コロナウイルスによる景気悪化に対する政策として米国が行った超低金利住宅ローンで住宅購入者が急増したことも木材高騰の原因と言われています。



NEWS ウッドショックとは?

日本は木材自給率が4割弱と輸入材に頼っています。景気回復が進む米国や中国の木材需要が高まったことで木材が不足。世界規模で木材価格の高騰が起こっています。

約 11,100 円 / ㎡
高山木材流通センターのスギ用材平均 (A~B材) は約3か月で5千円ほど値上がり。
約 16,500 円 / ㎡

鹿児島県森林組合連合会
業務部 高山木材流通センター
小齊平 所長代理

高山木材流通センター
(肝付町新富 7151)

鹿児島県内で生産された原木を集荷し、霧島市隼人と肝付町高山にある2カ所の木材流通センターで販売しています。

